郁政クラブ　行政視察報告書

視察日 ： 令和２年２月４日（火）～2月６日（木）

視察先 ： 鹿児島県霧島市　「シティプロモーション」について

宮崎県小林市　「生涯スポーツ」について

宮崎県西都市　「グリーンツーリズム」について

参加者 ： 内田　卓男　　矢口　清　　海老原　一郎　　小坂　博

島岡　宏明　　塚原　圭二　　勝田　達也　　矢口　勝男

奥谷　崇

視察先	鹿児島県霧島市（人口：12万7千人、面積：603㎢）
視察日	令和2年2月4日（火）　14：00～
内　容	「シティプロモーション」について
目　的	霧島市の魅力を再認識し、都市ブランド力・都市イメージ・認知度の向上を図り、新たな活力を創出するためにプロポーザル方式で導入した事業の説明を受け、本市のまちづくり、情報発信の参考とするため。
担当課	霧島PR課　総務企画グループ

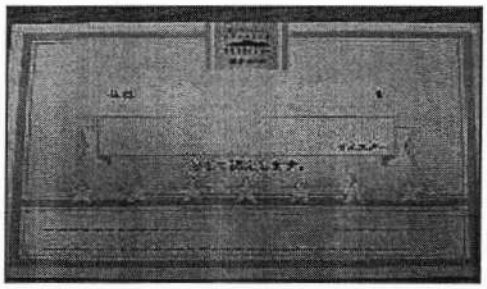
◆「シティプロモーション」について

霧島市は鹿児島県のほぼ中央部に位置し、北部は国定公園である霧島連山を有し、南部の広大な平野部は錦江湾に接し、桜島を望むことのできる風光明媚なまちである。

平成17年11月7日に1市6町が合併し誕生したが、湯治文化や別荘文化をもつ霧島市の長期滞在エリアとしてのポテンシャルに反し、1泊もしくは宿泊せずに別のエリアに宿泊する人が多く、2泊以上する人の割合が低いという観光関連での課題があった。霧島市は市の価値である①温泉が多数あり、効果・効能もバラエティーに富む、②霧島山からの雄大な風景、③家族で安価（4～500円）で楽しめる温泉家族風呂、④黒豚、黒酢、美味しい野菜等の食材が豊富、といった点をPRし、これらの価値を磨くことで霧島市民の満足度も向上し、市外からの来訪者が増加すると考えた。

この最初のステップとして、市民が霧島市の魅力を発見し、人、観光地、お店、サービス、風景などを褒めて、褒めて、褒めまくる。そこで、お互いの承認欲求を満たすまちを目指した取り組み『キリシマイスター認定制度』が始まった。その主な事業内容は次の通り。

【キリシマイスターカード】



・はがきサイズのカードを15,000枚作成し、イベントや学校、希望者などに配布。広報誌にも添付し、各世帯に配布した。

・褒めたい相手と、その理由を書いて相手に渡す。遠くに住む人へは郵送で思いを伝えられる。褒める対象は人に限らず、風景や観光地を褒めてもよい。

【ソーシャル日記システム（SNS）】

・霧島市民全員参加の交換日記。身近な人や観光地、お気に入りの店などを褒め、次の人に日記帳を渡す。

・日記帳が人から人へ渡り、ページが埋められていくことで霧島市の魅力が発見される仕組みで、回収することが目的ではない。

【霧島イイなの日】

・霧島市が誕生した11月7日にちなみ、様々な企画を実施した。

例1：市内協賛店舗による117（イイな）の語呂を合わせた企画。40店舗が参加した。

例2：市内小・中学校で11月7日に地元食材を活用した給食の提供と「イイなの日」の周知。

【褒め合う金婚式】

・霧島市社会福祉協議会と霧島PR課の合同企画

・金婚式を迎えられた76組のご夫婦に「褒め合うカード」を配布し、50年分の感謝の気持ちやお互いを褒め合うメッセージを交換。

【キリシマイスターモデル校事業】

・「キリシマイスター」を推進するため市内の小・中学校等をキリシマイスターモデル校として認定し、2019年度は小学校9校、中学校1校を認定した。

◆主な質疑

Q：大変素晴らしい取り組みだが、この事業における委託業者の関わり方、予算はどうなっているのか？

A：この事業は平成28年度から地方創生交付金を活用して始めた。委託業者は電通で、ロゴ等のデザインはクリエーターが担当。毎年プロポーザル方式で業者を選定し、3 年目は地元企業に委託した。予算は平成28年度5,800万円（内交付金5,500万円）、29年度は4,770万円（内交付金2,335万円）、30年度は2,947万円（内交付金1,450万円）、31年度は市の単独事業として1,061万円の予算となっている。

Q：みんなで「褒めあう」という発想はどこからでてきたのか？

A：霧島は黒酢、自然公園、桜島など資源が豊富な土地である。市民が魅力を高める必要がある。「褒めること」を否定することはできないので、当たり前のことが大切だと考えた。

Q：今後どのようなステップで取り組みを進めていくのか？

A：実際にはまだ市民の中にも知らない人がいるため、イベント等の開催を通じてカードの普及、交換日記のPRなどを行い、時間をかけて底辺を厚くすることを目指していく。

Q：この「キリシマイスター」の効果の指標は？

A：数値的なもので判断するのは難しいが、この事業で2件の不登校の改善が見られたり、運転手同士で褒めあう活動を始めたタクシー会社では接客の質が上がり、利用者から肯定的な意見を頂いたりしたこともあった。このような小さな個人の幸せを増やしていくことが大切だと考えている。また、学校教育の基本目標のトップに「褒めあう」がくるようになった。

Q：SNSでの発信についてはどのように考えているのか？

A：Facebookは取り組んでいる。また、「キリシマイチャンネル」という市民参加型のSNSでは、約1,200名のフォロワーが霧島市の素晴らしいところを発信している。

視察先	宮崎島県小林市（人口：4万4千人、面積：563㎢）
視察日	令和2年2月5日（水）　9：30～
内　容	「生涯スポーツ」について
目　的	スポーツは単に体力や競技力の向上を図るものだけではなく、生涯にわたり心身ともに健康で、豊かな暮らしを実現する上でも欠かせないものになってきている。高齢化の進展により、高齢者の健康づくり、介護予防、生きがい創出の面からも大きな役割を果たすが、「スポーツのまち小林」を掲げ、生涯スポーツを推進する小林市の施策を本市の取り組みの参考にするため。
担当課	スポーツ推進課

◆「生涯スポーツ」について

小林市は南九州の中央部、宮崎県の南西部に位置しており、霧島連山と九州山地に囲まれ、霧島ジオパークや綾ユネスコパークに認定されている自然豊かなまちである。また、全国7回の優勝を誇る小林高校駅伝部をはじめ、バスケットボール、ハンドボール、新体操、ウエイトリフティング等、全国大会で活躍する高校スポーツが多数存在するスポーツの盛んなまちでもある。

平成23年に改正されたスポーツ基本法に基づき、小林市では、小林市スポーツ振興審議会条例を定め「いつでも」「誰でも」「どこでも」「いつまでも」を合言葉に掲げ、スポーツに親しめる環境を整備し、豊かなスポーツライフを実現することでスポーツを通した地域コミュニティを推進してきた。

具体的な生涯スポーツの重点項目としては、①子どものからだの教育の推進と充実、②高齢者スポーツの推進、③障がい者スポーツの推進、④地域スポーツの推進、の4点を掲げ、26名のスポーツ推進委員が各種運動教室の講師をはじめ、各種スポーツ大会を成功させるために運営や補助を行っている。その他にも『地域総合型スポーツクラブ』として、部活動を引退した中学3年生を集めた「こばやし元気クラブ（会員数約150名）」では、各種スポーツ教室、サークル活動などを実施し、「クラブのじり（会員数約80名）」では、各種スポーツ教室、サークル活動など他に、ウオーキング大会やミニバレーボール大会などのイベントも開催している。

また、小林市体育協会では、より多くの市民にスポーツを楽しんでもらうために、市民スポーツ祭の冠を付けた大会を各競技団体中心に開催している。（令和元年度実績16競技17大会）

来年度の新規事業としては、年長から小学校低学年を対象にスポーツの楽しさを知ってもらうための「競技力向上事業」を開催する予定。対象競技は陸上、ハンドボール、バスケットボール、ウエイトリフティング、新体操、サッカー、野球、トランポリン、バレーボール等で、各競技団体や市内高校、スポーツ少年団と連携してスポーツ選択の機会を創出していく。

◆主な質疑

Q：各地区に体育館（11施設）や運動広場（8施設）、各小・中学校体育館（21施設）があり、管理が大変ではないか？

A：児童、生徒の減少や、施設の老朽化も目立ってきており、今後さらに大変になると考えている。

Q：多数の合宿の受け入れを行っているとのことだが、対応できる宿泊施設はあるのか？

A：宿泊施設がないと誘致は難しいのが現状。小林市でも団体で宿泊できるところは少なく、町内の温泉

施設で 100 名程度は受け入れ可能であり、県のキャンプ場ではコテージが 10 数棟ある。足りない場合は近隣市に協力依頼している。

Q：合宿誘致にあたって補助金は出しているのか？

A：補助金は出していない。合宿誘致推進協議会が動いており、人数や日数によってブドウなどの地場産品を差し入れしたり、送迎の補助をおこなったりはしている。

Q：競技力向上事業について、指導者の少ないスポーツを希望する場合の対応と、費用面はどうなっているのか教えてもらいたい？

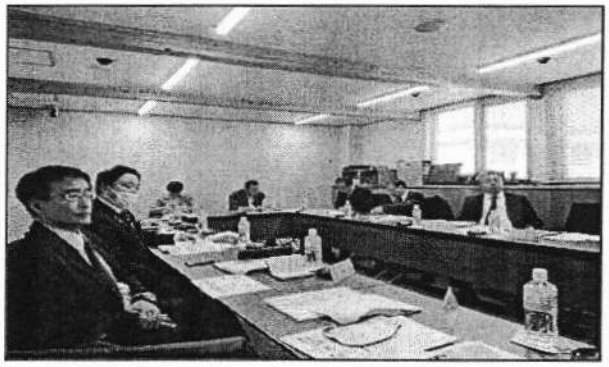
A：まずは興味を持たせることからスタートしている。基本的には小さな子どもに指導してもらえる団体に協力要請している。スポーツ少年団などは学区を超えた入団も可能にしている。進め方としては、2～3 ヶ月に一度、場所を指定し、参加費は徴収しない方向で、複数（3 つ程度）の団体を集めて実施したい。

Q：スポーツ推進委員について伺いたい。土浦市ではシルバーリハビリ体操を行っているが、小林市ではどのようなことを実施しているのか？

A：1 ヶ月に 4 回程、スポーツ推進委員を中心に教室を開催し、気軽にできるスポーツや鹿屋体育大学が考案した「貯筋運動」、ウオーキング等を行っている。これは各地区からの講師の派遣要請に応える形で行っている。

Q：このようにスポーツを愛する文化、高い意識はどこから生じたと考えているか？

A：駅伝競技からスタートしたと考えている。陸上協会に地元出身者が多くおり、各種大会の運営に携わってもらっている。また、各家庭においては、おじいちゃんが経験したスポーツを息子が経験し、孫も同じスポーツをする、ということも珍しくなく、「あの家は陸上競技」「こちらの家は野球」「この家はバレーボール」ということがよくある。



視察先	宮崎県西都市（人口：2万9千人、面積：439㎢）
視察日	令和2年2月6日（木）　9：30～
内　容	「グリーンツーリズム」について
目　的	少子高齢化や人口減少が進行する中、地元の資源を最大限に活用し、地域の活性化をめざし「グリーン・ツーリズム研究会」を立ち上げている。教育旅行の受け入れにも力を入れる同市の取り組みについて視察し、今後の農政、環境、観光施策への参考とするため。
担当課	商工観光課

◆「グリーンツーリズム」について

「グリーンツーリズム」とは、都市居住者などが農山漁村の農場などで休暇や余暇を過ごすことを指し、グリーンツーリズムの振興は滞在者に自然や地元住民とふれあう機会を提供するだけでなく、地域を活性化させ、新たな産業を創出することを目的としている。平成6年には「農山漁村余暇法」が制定され、様々な地域で農家民宿の登録や基盤整備さらには体験・交流プログラムの作成がなされ、教育旅行の受け入れなどが行われている。〈参考：JTB総合研究所　観光用語集〉

今回視察した宮崎県西都市には、東米良グリーン・ツーリズム協議会（平成16年設立）、西都原グリーン・ツーリズムの会（平成18年設立）といった2つの推進組織があったが、平成21年度に活動を一本化し、市内全域にわたる活動としてスケールメリットを活かした展開をするために平成21年5月、西都市グリーン・ツーリズム研究会を設立した。会員数は51名、農家民宿9軒、農家民泊17軒、最大70名程度の受け入れが可能で、2016年度以降は、本格的に台湾からの教育旅行を受け入れるようになり、全体の7～8割を占めている。台湾で生まれ育ち、同市出身者と結婚した女性が「西都に恩返しするため、故郷の台湾から観光客を呼び込めれば」と考えたのがきっかけで、その後の姉妹都市締結にも大きく寄与した。2013年から現在までの旅行者受け入れ実績は表のとおり。

年度	延べ宿泊者数	団体数
２０１３	３１５	１７
２０１４	４９５	２２
２０１５	７２３	１８
２０１６	１，０６５（７３０）	２３
２０１７	９８１（７４９）	１８
２０１８	８８３（５６６）	１７
２０１９	約１，３００	

※（　）台湾教育旅行

予算は一般会計を充てており、グリーン・ツーリズム推進事業全体の平成31年度予算は4,622千円、そのうち補助金が1,750千円で、実質的な活動費となる研究会事業費補助金（1,000千円）、改築や消火器等の設置費用となる民宿推進事業補助金（750千円）から成り立っている。また、観光協会補助金として教育旅行受入促進事業費2,000千円があり、教育旅行宿泊費補助として1泊2,000円が上限3泊分（6,000円）まで支給されることになっている。

具体的な活動内容としては、農業体験、郷土料理体験、クラフト体験などの体験学習プログラムや西都原考古博物館における歴史・文化の学習、浴衣の着付け体験などを行っている。これらのプログラ

ムを円滑に、かつ安全に進めるために安全・衛生講習も実施している。救急講習や衛生講習は毎年実施し、その他にも台湾語講座、料理講習、浴衣着付講習等も定期的に開催し、旅行者を迎え入れる準備を行っている。

グリーン・ツーリズムによる地域への効果としては、地域経済の活性化や地域交流、交流人口の増加などが挙げられるが、現会員の高齢化が進んでおり、宿泊受け入れに支障が出てきている現状もあり、新規会員の獲得が今後の課題とのことだった。

◆主な質疑

Q：農家を営む人々が外国人を受け入れる、ということに対して言葉の問題などはなかったか？

A：まずは交流することが楽しい、ということを会員から他の市民に伝えてもらうことが大切。言葉の問題はスマートホンを活用しているし、台湾からの旅行者ということで漢字がわかるため、筆談でも対応しているようだ。まずは、子どもを受け入れるほうが安心感があるので、そこから大人の受け入れへ広げていきたい。

Q：受け入れ先の募集に難しさはなかったのか？

A：会員の知り合いから広げ、自らやりたい人を中心に集めた。興味を持った人が希望して来るので、それほど難しくはない。

Q：民泊におけるトラブルの事例があれば教えてほしい。

A：他市では事故があったということを聞いているが、西都市では大きなトラブルはない。消防や病院にはあらかじめ連絡しておき、旅行会社や引率の先生方と連携するようにしている。

Q：この事業に対し、国からの補助金はあるのか？

A：国、県からの補助金はない。

Q：受け入れ先の平均年齢と、課題は？

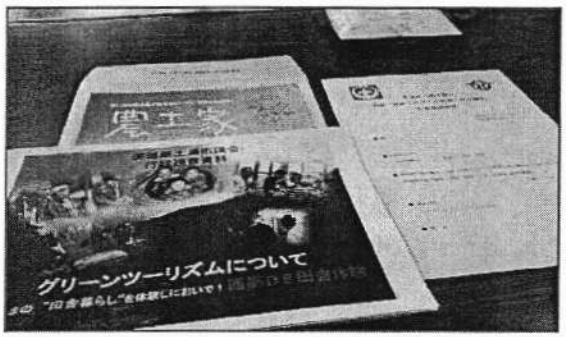
A：若い人で45～6歳の人もいるが、平均すると60歳代後半になると思う。この事業は会員がいないと成り立たない。旅行者を受け入れている期間は農作業を休まなくてはならないため、農家を営む若い人たちの協力を得ることが難しい。

Q：実際の宿泊料はいくらになるのか？

A：中学生以上は、1泊2食付きで一人6,500円に設定しており、今年度は1泊2,000円を補助する。宿泊費の他に体験料（1,000～1,500円）、昼食代（700円）が発生する。

Q：地元の小、中学生とはどのように交流しているのか？

A:教育委員会から各学校に連絡して調整している。旅行者が学校を訪問し1日4～5時間交流している。



（報告者：奥谷　崇）

郁政クラブ行政視察報告書

内田　卓男

令和２年２月４日(火)～～6日(木)

- 鹿児島県霧島市『シテイプロモーションについて』
- 宮崎県小林市『生涯スポーツについて』
- 宮崎県西都市『グリーンツーリズムについて』

『 感 想 』

● 鹿児島県霧島市『シテイプロモーションについて

天孫降臨という畏れ多い霧島を抱える街・花は霧島、たばこは国分と歌われた霧島市。

京セラ・ソニーのハイテク工場群が市中央部に割拠している。

キリシマイスターカードに始まるシテイプロモーションの展開に感動した。さすがに電通だ。

褒めて褒めて褒めまくる・・・人・物・おらが街を褒めまくる。

こんな発想をする人はどんな人だろう。偉い。偉い。

金婚式まで、夫婦共々褒め合うカード。なんと素晴らしい企画だ。

土浦市だけではないが、日本人が上から目線で、自分の街を貶し、問題提起と称する悪口の連続、如何に自分自身がみすぼらしい心の持ち主か考えさせられることか。

すべてを、褒めるところから、スタートしてみることが大切だと思い知らされた。

自分自身の足下から、始めようと思う。

● 宮崎県小林市『生涯スポーツについて』

『小林高校』・・・熱き思いを襷にかけて、都大路を駆け抜ける全国区高校駅伝競走大会が大好きな私は、数十年前から関心を持っていました。

特に男子は全国高校駅伝に 50 回以上出場し、7 度の優勝に輝く。女子駅伝の活躍も目立ちます。また、女子バスケットボール部も高校総体で 2 年連続 41 回目の優勝を果たすなど強豪である。

やはり陸上競技からのスポーツ熱の源流と感じられた。

この熱を生涯スポーツと捉え、各種競技に発展させているのは、さすがである。

小林市体育協会は、『市民スポーツ祭』の冠大会を 16 競技 17 大会開催しているのには驚きである。

これからの課題として、各競技施設の老朽化、合宿受け入れの宿泊施設不足に悩んでいる。

土浦市は、野球熱からサッカー熱の急進に対応しなければならない。新年度予算に新治運動場に人工芝を実現することには一定の評価をしている。

● 宮崎県西都市『グリーンツーリズムについて』

グリーンツーリズムとは、農産漁村地域において、自然・文化・人々との交流を楽しむ、滞在型の余暇活動のこと。

これまでの活動

○ゆっくりとした農村の暮らしを味わえる農家民泊

○自宅で生産している農作物の手入れや収穫などを農業体験として提供

○わらや竹など自然の素材を使って、生活用品や遊び道具を作るクラフト体験

課題として農業体験の受け入れや農家民宿・民泊に取り組む協力者が必要。

都会の人や子どもとのふれあいが、自身の生きがいや元気づくり、そして地域づくりや観光振興へと展開。

全体の受け入れのうち台湾が７割余を占めるが、　外、日本人学校が数校あると聞き国際的な広がりを感じた。

逆に考えると、日本人である都会人への広がりがないのではないか。

矢口　清

◆ 感想文

1．鹿児島県霧島市「シティプロモーション」について

シティプロモーションの目的の１つとして、「地域住民に地元愛を持ってもらう」ことが挙げられます。

地域活性化の主な目的は、人の交流や住民の数を増やして経済効果を高めることです。そしてそのためには、住民の意識が大きく関わってきます。

そもそも自治体は住民から成り立っているため、各地域の住民が地元を愛し、自治体の取り組みに協力することが地域活性化の原動力につながるでしょう。

霧島市のシティプロモーションは地方創生補助金を使って「電通」が行っているものである。

「霧島市のファンをつくる」「幸せの数を増やす」をコンセプトに郷土愛醸成を図った。

「キリシマイスター」制度を始め、褒めて伸ばすが合言葉の、善意の認定制度がはじまる。

「敬老の日」「勤労感謝の日」「母の日」「父の日」「結婚記念日」「誕生日」などいろいろな節目に「キリシママイスターカード」を贈る事である。

褒め合う取り組みをしてからは不登校の生徒がいなくなったという報告があった。日頃の生活の中で沢山の幸せの数が増え、それがまちへの愛着につながり、将来霧島市に住み続けたいと思いに繋げていきます。

霧島市民の主観的な目線では「霧島市」が全国区であるとの意識は高いが全国の市町村がライバルとなる観光客、移住者等の交流人口増加のためには認知度向上が不可欠である。

霧島市のシティプロモーションを視察して感じた事は、当たり前の事がテーマになっていることである。平成17年11月7日に、1市6町が合併して、霧島市が発足した。霧島市として早く一体化させることが必要であったと思います。その意味では「キリシママイスター」制度が果たす役割は大きいと思います。

2．宮崎県小林市「生涯スポーツ」について

宮崎県小林市は高校駅伝で有名である、全国7回の優勝を誇る。駅伝の他、バスケットボール、ハンドボール、新体操、ウエイトリフティング等、全国大会で活躍する高校スポーツ活動の盛んなまちである。

小林市の目指す生涯スポーツは、「いつでも」「誰でも」「どこでも」「いつまでも」を目標にして、スポーツに親しめる環境を整備し、豊かなスポーツライフを実現する事で、スポーツを通した地域コミュニティを推進している。

生涯スポーツの重点項目①子どもの体の教育の推進と充実②高齢者スポーツの推進③障がい者スポーツの推進④地域スポーツの推進を定め、スポーツ推進委員を選んでいる。

市民スポーツ祭りこばやし駅伝競走大会、市民スポーツ祭りこばやし大運動会、こばや

し霧島連山絶景マラソン大会、こばやし霧島連山絶景ウオーク等を開催している。
令和２年度からは、競技力向上事業を予定している。これは年長から小学校低学年を対象にスポーツの楽しさを知ってもらいスポーツ選択の機会を創出することを目的に開催します。
小林市のスポーツは、全国レベルにある。一朝一夕になったわけではなく、住民の皆さんの努力と長い年月が掛かっている。
本市もスポーツは盛んである。参考にするところが多々あった。

３．宮崎県西都市「グリーンツーリズム」について
農山漁村に滞在し農漁業体験を楽しみ、地域の人々との交流を図る余暇活動の事である。
長期バカンスを楽しむことの多いヨーロッパ諸国で普及した。
宮崎県で６番目の面積を持つ市であり、市域の７割が山岳地帯である。市を北西から南東に向かって、一ツ瀬川が貫流している。上流部では無数の小川が渓谷を刻み、それらの流れが集まって、九州最大の貯水量を誇る一ツ瀬ダム（米良湖）となっている。下流は宮崎平野が広がり、園芸農業、畜産業が盛んであるほか,西岸の体積層台地には西都原古墳群が広がる。
記紀によると、天照大神の孫瓊瓊杵尊は日向の高千穂峰に降臨した。その後、居を構えたのが現在の西都市であったとされる西都は日本最大の古墳集積地帯である。
その後の過疎化・少子高齢化の進展、郊外型店舗の進展、郊外型店舗の進出によって、現在中心市街地は衰退している。現在人口は２９，０３５人である。
「西都で田舎体験」をという事で始めたグリーンツーリズムである、台湾との交流が続いているのは、台湾出身の「黒木萌々華」さんの努力によるところが大きい。
農業体験を通して食の大切さを学び、郷土料理を食べる事によって親しみを増す。
３日の体験モデルプランがあり、これに沿って実施している。
課題としては、会員の高齢化が進んでおり、宿泊受け入れに支障が出ている。
本市も１４、５年前、新治地区で検討された事が有ったが持続性という事で問題があった。

郁政クラブ視察報告書　　海老原　一郎

令和２年２月４日～６日

１．鹿児島県霧島市　シテイプロモーションについて

・市民一人ひとりが、自分の市のどんなこと・ところでもいいから褒めあう（家族や知人を褒めあうことも含む）『キリシマイスター』制度、市民全員参加の交換日記『ソーシャル日記システム』は、自分の市の再確認をすることや気づかなかったことや場所を見つけることができ、また、家族間や周囲の人たちとの繋がりが深くなり、土浦市でも取り組んでも良い事業と思いました。

２．宮崎県小林市　生涯スポーツについて

・高校駅伝で日本でも有名な小林高校があり、スポーツのまち小林市を推進させようとの施策でした。地区の体育館も１１施設もあり、子供から高齢者まで、いつでも・だれでも・どこでも・いつまでもスポーツできる環境も整備されていました。その施策の中で、市民スポーツ祭駅伝競走大会や大運動会など市民が選手であったり応援を通してスポーツに親しむ気運の情勢を図っていることは参考になった。

３．宮崎県西都市　グリーンツーリズムについて

・農家の民宿や民泊で主に台湾の中学生を中心に受け入れている施策でした。台湾で生まれ西都市出身の夫と結婚し、西都市に移住された主婦が、台湾の商業都市と西都市の姉妹都市締結に貢献したことから、台湾からの教育旅行受け入れが実現し、それが広まって、２０１８年には、台湾から９校を受け入れるまでになったものでした。そのような、特別な方がいて、農家の民宿や民泊を利用する方が見込める状況にならないと、土浦市では農家の民宿や民泊は難しいと思いました。

土浦市議会　郁政クラブ　行政視察　　感想　小坂　博

鹿児島県霧島市・宮崎県小林市・西都市（令和２年２月４日～6 日）

1 霧島市

・.シテイプロモーションの展開と取り組みについて

霧島市.における取り組みは、褒めて伸ばすをキーワードに「キリシマイスター制度」をスタートさせたといったことで、シテイプロモーションが進められています。多少商業ベースによるような、ちょっとどこかで、見聞きしたような気もしましたが、褒め合うというのはとても良いことだと感じましたし、明るくなると思いました。

国からの 3 年間の予算措置があるということでしたが、予算がなくなってからもぜひ続けてほしいなと思いました。

しかしながら、この程度のことでは抜本的な効果は上げられないように思います。土浦市にとっては、あったら良いなという程度の施策と思われます。

2. 小林市

・小林市の生涯スポーツについて

小林市は人口規模の割に充実した体育施設が多いので大変恵まれていると思いました。その一方で維持管理に多くの予算がかかるのではないかと思いました。そのような質問も出ておりましたが、市民の方々が修理等に協力といったこともあるようですが、あまり明確なお答は得られなかったようでした。いずれにせよ土浦市に比較し、大変多くの施設を抱えながらも、市民とともに維持管理もされながらスポーツを楽しむ姿はうらやましい限りでした。ぜひ土浦市にもそのような施策をとってほしいものです。

3. 西都市

・西都市グリーンツーリズムについて

西都市に市外からも海外からも多くの方をお呼びして、田舎暮らしを体験しもらおうとグリーンツーリズム研究会という地域拠点組織が企画運営をしていて、「田舎暮らし」を体験してくださいということで町おこしをされていました。

何よりも感じられたのは自分たちのまちは自分たちでつくるという気概でした。国、県の予算もないにもかかわらず、ボランテイアが中心で人を呼び込もうとしている試みは大変立派だと感じました。

土浦市も、行政も市民も市議会も一体となって、まちづくりを進めれば、必ずや成功すると思います。大変参考になりました。

行政視察報告書

郁政クラブ　島岡　宏明

視察日：令和２年２月４日

視察先：鹿児島県霧島市

視察内容：シティープロモーション

霧島市は「ほめて伸ばす」が合言葉のキリシマイスター制度というものを取り入れて沢山の人の「いいね」が町中に広がっています。

例えば、土浦市では見送りになってしまった金婚式での78組の皆さんによる互いに向かい合ってありがとうと祝杯を挙げ、支えあい、歩んできた50年を振り返るような行事をいろいろな場面で行っていました。

特に面白いのが、身近な人の褒めたいエピソードなどを書いて手渡す交換日記を始めた「ソーシャル日記システム」と名付け、文字で伝える感謝感動の輪を広げようとしています。

市全体が、「ありがとう」、「いいね」の言葉で溢れていました。

小さな事ではありますけど、この運動の輪が大きく広がる事で、まちのシティープロモーションとして、十分に機能すると感じました。土浦市でも取り入れられればと思いました。

視察先：宮崎県小林市

視察内容：生涯スポーツについて

小林市は特に小林高校の駅伝部が有名ですが、他にもバスケットボール、新体操、ウェイトリフティングなどあらゆるスポーツで全国レベルでの活躍をしています

また、全市民による市民スポーツ祭こばやし大運動会、市民スポーツ祭こばやし駅伝大会、こばやし霧島連山絶景マラソン大会があります。

市民による市民の為のスポーツ大会がたくさんあります。

そういった幼児からお年寄りまで普段からスポーツを楽しみ、スポーツに慣れ親しむところが素晴らしいと感じました。

また、各家庭のスポーツへ取り組む姿勢が素晴らしく、例えば親子何代にもわたって同じスポーツ、バスケットであったり、新体操であったり家族全員で子ども達の応援をする事も出来ます。

こういったスポーツでの伝統は例えば駅伝大会が69回続いているように一朝一夕というわけではなく、長年の市民の皆さんの努力の賜物だと思いました。

土浦市でも小林市に劣らないような素晴らしい要素が沢山あると思いますので、掘り起していければと思いました。

視察先：宮崎県西都市

視察内容：グリーン・ツーリズム

宮崎県西都市では、東米良グリーン・ツーリズム協議会、西都原グリーンツーリズムの会といった地域拠点組織があります。

これらの組織はそれぞれの地域において活動してきましたが、新たな実践者を加え、西都市内全域に渡るエリアの活動としてスケールメリットを生かした展開とする為に、西都市グリーン・ツーリズム研究会を設立しました。

地域区分ではなく宿泊部、体験部といった受け入れ区分ごとに編成し、ワンストップ窓口として商工観光課ツーリズム係に事務局を設置し、西都市観光協会や、宮崎県立西都原考古博物館等、さまざまな関係機関の皆さんと協力して質の高いグリーン・ツーリズム商品の開発提供に取り組んでいました。

受け入れ実績も 2016 年、宿泊者数 1065、団体数 23、2017 年、宿泊者数 981、団体数 18 と素晴らしい実績を残しています。

土浦市でも空いている住宅等を利用してこういった民泊の取組みをするのも面白いのではないかと思います。

郁政クラブ行政視察報告書　　塚原　圭二

霧島市「シティプロモーションの展開と取組について」

近年では、シティプロモーションと言うと市街や県外のアピールが優先される傾向にあるが、霧島市では「外にPRする前に霧島市民が霧島市を知り、好きになる事が大切である」をモットーに、まちづくりに積極的に関わる霧島市のファンを増やし、持続的な発展を目指すための様々な取り組みが行われていた。

その中で、霧島市の魅力を発見し、磨き上げる「ｷﾘｼﾏｲｽﾀｰ」制度は非常に素晴らしい取り組みと感じました。

土浦市でも行政側からの一方通行のPRでなく、市民が土浦を知り、PRをしていく仕組みづくりを考えていきたい。

小林市「生涯スポーツについて」

市の規模としては人口4万3千人と大きくはないが全国高校駅伝で7度の優勝を誇る小林高校やその他バスケットボール、ハンドボール、新体操など全国大会で活躍する高校スポーツが盛んなのか今まで不思議に思っていましたが、今回の視察において、スポーツ施設の充実、指導者の育成、何より幼稚教育からの積極的なスポーツの導入が強さを生み出していることが分かった。

結果的に、高齢になってもスポーツを継続していることで、生涯スポーツの先進事例となっていた。

スポーツを通じて、自分自身の体調を管理し、健康的な生活を送る事がいかに大切か学びました。

西都市「グリーンツーリズムについて」

西都市のグリーンツーリズムはワンストップ窓口として商工観光課観光ツーリズム係に事務局が設置され、地域区分ではなく宿泊部・体験部といった受け入れ区分毎にわけられている。

近年は台湾の教育旅行の受け入れが全体の７割を占め、活発に交流が行われている。

この教育旅行は、西都市に結婚で移住された台湾出身の方の尽力により、台湾の都市と姉妹都市を結んだことから始まっている。

現在は、受け入れ態勢も整っているが、やはり高齢化が進み、今後も同様な活動が出来るかが今後の課題の様である。

本市も、自然に恵まれた土地柄でもあるので、本市をして頂く意味でも参考にしていきたい。

霧島市シティープロモーションについて

多くの自治体の行うシティープロモーションとはその市の魅力を磨いて情報発信することです。霧島市は平成17年11月7日に1市6町の合併で誕生しました。その経緯から地域間のライバル心が強く、市民のアンケートでも一体感の弱さが課題として浮かんできました。そこでシティープロモーションの最初のステップとしてお互いを誉めあうことに重点を置きこの事業を始めました。市民が15,000枚のキリシマイスターカードで、人を含めた市のいいところを誉めて、誉めて、誉めまくる。承認欲求が満たされて幸せが増えるという仕組みです。霧島市民全員参加の交換日記は褒めたいことを書いて誰かに渡す仕組み。これらの取り組みは予算も少額で可能であり、土浦市に於いても工夫して応用可能であると感じました。なお、副次的な効果ですが、不登校の子供が減ったという効果もあったそうです。

小林市の生涯スポーツについて

小林市の取り組みで特に興味深いのは、小林元気クラブでした。この事業の特徴は部活を引退した中学 3 年生を対象にスポーツができる環境を整えている点です。例えばバレーボールは中学と高校のネットの高さが違うので、高校生用の高さのネットで練習し高校の基準に備えます。部活引退から受験までの間、心身ともに子供たちのストレスを解消します。また小学生を対象にスポーツ少年団は学校を超えた入団を可としており、市内の競技団体に声掛けして複数の協議を経験できるプログラムを行っています。子どもの体の教育の推進、高齢者スポーツの推進を重点に「いつでも」「誰でも」「どこでも」「いつまでも」を掲げスポーツを通した地域コミュニティ推進しております。

西都市のグリーン・ツーリズムについて

西都市のグリーン・ツーリズムは台湾の学校を多く受け入れしています。2泊3日の体験モデルプランを策定し、農家民宿9軒。農家民泊17軒で最大70名程度の受け入れ態勢です。グリーン・ツーリズムを推進する地域拠点を一本化し、平成21年5月に西都市グリーン・ツーリズム研究会を設立しました。

自宅を民泊化し訪問客を受け入れることに対する、ハードルについて伺いました。最初のステップで自ら宿泊受け入れを望んでいる方がある程度いたことは驚きました、継続と新規の受け入れ先確保には、まず現在の会員が活動を楽しいと感じるのかが大切との説明でした。会話は身振り手振りとスマホのアプリとのこと。何よりも温かい人柄、地域柄のおかげと感じました。

郁政会　会計　勝田達也

郁政クラブ 行政視察 感想　　矢口 勝雄

西都市　「グリーンツーリズムについて」

西都市に入り視察の予定時刻まで多少時間の余裕があったため、まず「西都原古墳群」を見学してきました。ここは国の特別史跡に指定され、我が国第一号の風土記の丘として整備されています。319もの様々な形状の古墳がこの丘に一様に存在しているのは、正に聖なる地だと感じました。

西都市で取り組んでいる「グリーンツーリズム」は、黒木さんという一人の女性の存在が大きいです。彼女は台湾出身で日本に留学、同市出身の男性と結婚し、定住しました。西都市への恩返しとの思いで「故郷から観光客を呼び込めれば」と教育旅行を提案したとの事。台湾からの人たちとの通訳などを務め、継続的に中心的な役割を担っています。

スライドを見せていただきましたが、研究会の会員、そして体験学習プログラム参加者の笑顔がとても印象的でした。

西都市の良さを多くの参加者に知ってもらえる、それが会員の西都市民としての誇りにつながっていると感じました。我が市としてもこの点が大いに参考になると考えます。

小林市　「小林市の生涯スポーツ」

小林市役所庁舎に入り、木の良さを全面に押し出したこの真新しい建物に圧倒されました。同市の代表的な産品である木材を活用しているとのことです。同様に木の質感、香りを感じられる、とても印象的な議場も見学させていただきました。

小林市の生涯スポーツは、スポーツを通した地域コミュニティを推進することを目的としています。市内には地区体育館が１１施設もあり、予約もいっぱいに入っているとの事からも、スポーツが市民に根付いているのがうかがえます。

おじいちゃんおばあちゃん世代のまちに対する思い入れが強いとの事。家によって、代々スポーツの種目がはっきりしているそうです。こう言ったことからも、目的である地域コミュニティにスポーツが大いに役立っていると思いました。

霧島市　「シティプロモーションについて」

褒めて伸ばすが合言葉の「キリシマイスター」。このキャッチフレーズの前向きな姿勢に好感が持てます。

この取り組みを始めて４年が経ち、成果を計るまでは到達していないとのことでしたが、

二人の不登校児童が登校出来るようになった、金婚式で夫婦が褒めあい涙を流していたなどのお話を聞き、幸せを増やす素晴らしい事業だと感じました。

我が市においても、土浦の良さを市民に見つけてもらう良い参考になると考えます。

郁政クラブ　奥谷　崇

○「シティプロモーション」について〈2/4、鹿児島県霧島市〉

プロポーザル方式により委託業者を入れて地域の魅力を探し出し、地域の活性化に取り組んでいる霧島市を視察したが、とても興味深い内容だった。3年間で13,500万円（内、交付金9,285万円）を活用し、31年度は市の単独事業とのことだったが、「霧島市の独自の魅力を、市民一丸となり再発見し、磨き、発信し、霧島市への来訪意向や移住・定住意向の増加を実現するためのプロジェクト」とのことで、市民の参画意識、巻き込み方がとても素晴らしかった。

褒めたい相手と、理由を書いて本人に渡す「キリシマイスターカード」、霧島市民全員参加の交換日記「ソーシャル日記システム（SNS）」、霧島市が誕生した11月7日にちなみ、様々なイベントを実施する「霧島イイなの日」など、実際に市民が活動している映像を拝見し、参加者が笑顔で、イキイキとしている様子を見ていると、こちらまで幸せな気分になった。

人は褒められることによって、脳内のA10神経が刺激され、ドーパミンが放出されることで強い幸福感に包まれるという。また、誰かを褒めると、褒められた人は他の人へもそのことを伝える可能性もあり、幸福感がさらに広がっていくことになる。ことからも、この取り組みは理にかなっているともいえ、実際に社会福祉協議会と霧島PR課の合同企画で行われた「褒め合う金婚式」では、夫婦が50年分の感謝の気持ちやお互い褒め合うメッセージを交換しているシーンは、とても感動的なものだった。

これらの取り組みをそのまま土浦市で実施できるとは思わないが、個人、職場、地域などの単位で、人を「褒める」ということをもっと心がけるべきではないかと強く感じた。

○「生涯スポーツ」について〈2/5、宮崎県小林市〉

スポーツが盛んな小林市では、生涯スポーツについて説明を受けた。まず驚いたのは市内の体育施設の多さだった。人口約4万人のまちに市民体育館、各地区体育館（11施設）、弓道場（2施設）、各地区運動公園（8施設）、各小・中学校体育館（21施設）があり、市民がスポーツを気軽に楽しめる環境が整っていることだった。しかし、児童・生徒の減少や施設の老朽化により、維持管理が今後の課題となっており、今後、財政面で心配な部分があるとのことだった。

小林市では、スポーツ推進委員が各種運営や補助を行っているが、土浦市でも今後の高齢化社会に備え、高齢者の生きがい創出、医療費の抑制の観点からも更に取り組みを促進すべきだと感じた。

○「グリーン・ツーリズム」について〈2/6、宮崎県西都市〉

西都市では、グリーン・ツーリズム研究会を通じて台湾からの教育旅行を多く受け入れている。農業を営んでいる一般の方が、旅行者、特に外国人を受け入れるにあたり、抵抗がないかという質問が出されたが、会員の知人で自ら希望する人を中心に募ることにより、興味がある人が応募するためそれほど抵抗はない、とのことだった。

西都市の人口は約3万人とのことだが、会員を対象に救急講習や衛生講習、その他にも台湾語講座、料理講習、浴衣着付講習などを定期的に開催し、受け入れ態勢を整えている。ただ、受け入れ先の高齢化が進行しており、今後、永続的に事業展開していくには後継者（新規会員）の確保が急務であろう。現役世代の会員を確保するためには、受け入れ期間の所得補償などの対策を考えなければ、先細りしてしまうのではないか、との危惧を抱いてしまった。

以上